

民主青年新聞

DEMOCRATIC YOUTH NEWSPAPER

みどころ

平和求め声上げる高校生たち

新連載 古典探究

次号は5月25日付になります

6、7面

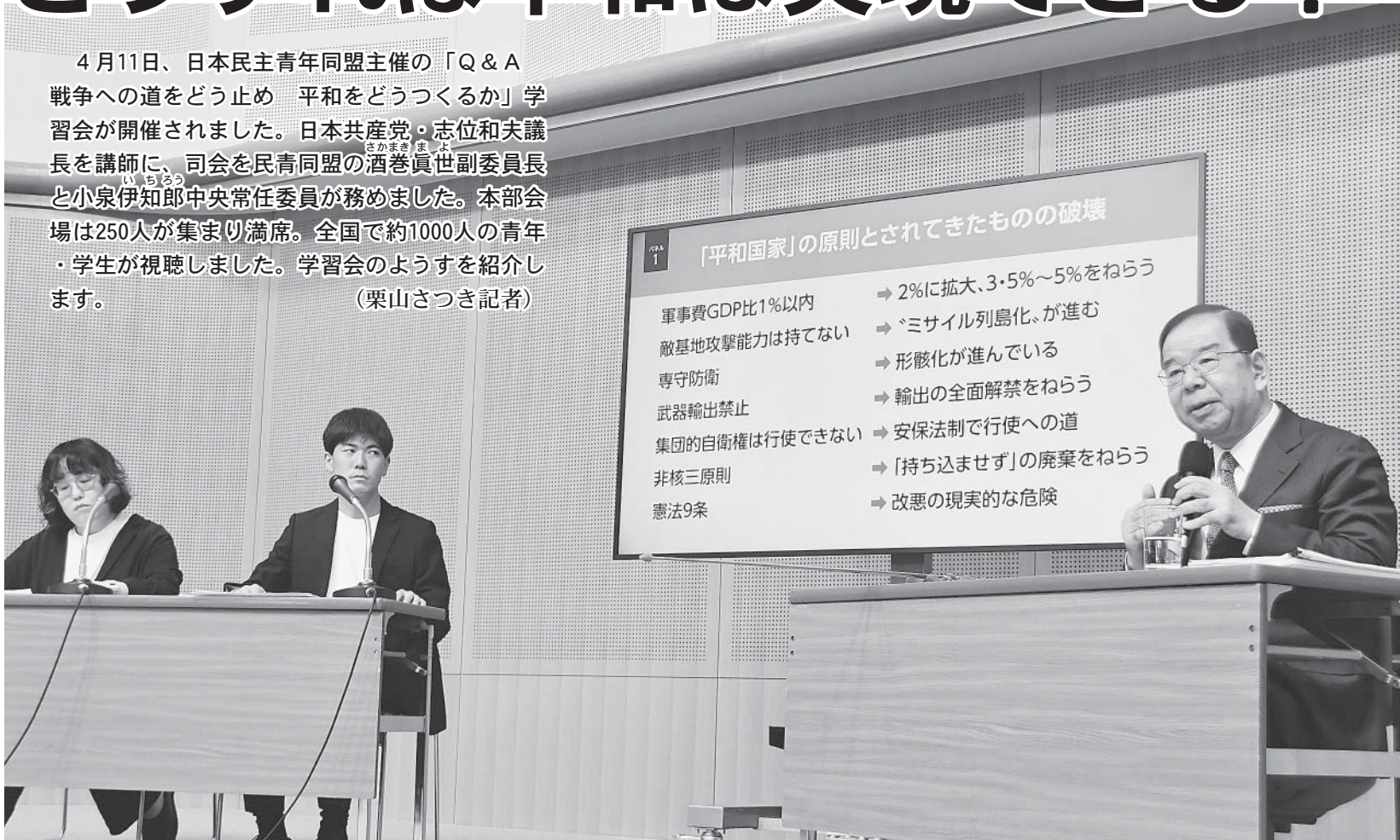
3面

▶ ホームページ www.dylj.or.jp ▶ Eメール minsins@dylj.or.jp

どうすれば平和は実現できる？

4月11日、日本民主青年同盟主催の「Q&A 戦争への道をどう止め 平和をどうつくるか」学習会が開催されました。日本共産党・志位和夫議長を講師に、司会を民青同盟の酒巻眞世副委員長と小泉伊知郎中央常任委員が務めました。本部会場は250人が集まり満席。全国で約1000人の青年・学生が視聴しました。学習会のようすを紹介します。(栗山さつき記者)

▶イントロダクションで疑問に答える志位和夫議長(写真右)と司会の酒巻眞世副委員長(写真左)と小泉伊知郎中央常任委員(写真中央)(4月11日、都内)



「平和国家」の原則とされてきたものの破壊

軍事費GDP比1%以内	→ 2%に拡大、3・5%~5%をねらう
敵基地攻撃能力は持てない	→ ミサイル列島化、が進む
専守防衛	→ 形骸化が進んでいる
武器輸出禁止	→ 輸出の全面解禁をねらう
集団的自衛権は行使できない	→ 安保法制で行使への道
非核三原則	→ 「持ち込ませず」の廃棄をねらう
憲法9条	→ 改悪の現実的な危険

「Q&A

戦争への道をどう止め

平和をどうつくるか

4・11学習会

「戦争はいや」の思いから出発

冒頭、酒巻副委員長は、3月24日、この学習会準備にあたり、民青同盟と志位さんと「ミニ学習会」を開催したことを報告。志位さんから学習内容の概要を聞き、民青同盟からは青年との対話の中で出されている疑問や質問について伝えました。その内容を踏まえて、民青として質問案をつくり、志位さんと相談して質問を練り上げてつくった学習会であることを話しました。

「希望」については、志位さんは「大いにある」と強調。「平和を求める新しい自主的な市民運動が広がっていること」と語り、4月8日の「平和憲法を守るための緊急アクション」に3万人の市民が参加し国会議事堂を取り囲んだことなどを紹介しました。また、「意見の違う人と

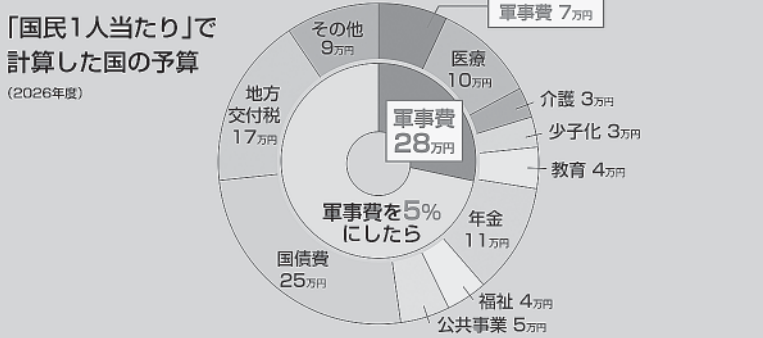
どう対話したら？」という質問に対して、志位さんは「私は、(防衛費増額も仕方ない、憲法9条変える必要があるという意見を持つ)そういう人たちも『戦争はいや』という気持ちで共通しているのではないかと会場に問いかけました。

アメリカ言いなり・抑止力…疑問正面から

第一の角度「トランプ大統領言いなりで平和はつくられるか？」では、アメリカ・イスラエルによるイラン攻撃について質問され、志位さんは「どんな理由をもつても許されない、国連憲章と国際法に違反する暴挙であることは明らか」と表明しました。そしてトランプ大統領のホルムズ海峡への艦艇派遣要請に対する、NATO加盟国がそろって拒否したことを紹介し、「世界はトランプ大統領の『力による支配』に決

力を持ってない」「専守防衛の『力による支配』に決

軍事費がGDP比5%になればどうなるか



▲学習会で紹介されたパネル。軍事費がGDP比5%になった際の一人当たりの負担額の大きさについて「びっくりした」という感想が多く寄せられていた

第二の角度「軍事的抑止力の強化で平和はつくられるか？」では、いま世界で起きている軍拡競争と戦争と

の関係を、人類の歴史に見ると「敵対」が支配していた東軍拡競争と戦争の関係、日本とアジア地域を、「平和と協力の」の地域へと劇的に変えた秘訣として、「年間1500回に及ぶ対話の習慣」などの努力を挙げました。日本共産党が2024年4月に発表した「東アジア

「そもそも『抑止力』と平和提言を紹介し、憲法9条を生かした平和外交でASEANと協力しては恐怖対恐怖、軍事対軍事の悪循環であり、安全保障のシレンマに陥ることを話しました。『外交の力で平和はつく